

研究紀要

子どもたちが主体的に楽しく学べる授業づくり
～ICT を活用した学習活動を通して～



2026年1月

大阪市立清水小学校

目 次

I. 研究の取り組み

II. 各学年の実践

- ◇ 第1学年 国語科「こえに出してよもう」
- ◇ 第2学年 国語科「『どうぶつカード』を作ろう」
- ◇ 第3学年 図工科「いろいろな『顔』見つけた」
- ◇ 第4学年 国語科「表し方のくふうを考えよう」
- ◇ 第5学年 外国語科「What subject dou you like?」
- ◇ 第6学年 総合的な学習の時間「平和のバトンをつなげよう」

III. 研究のまとめ

1. 研究の成果

2. 今後の課題

IV. 資料

- ・ICT活用データ

I. 研究の取り組み

1. 研究主題

子どもたちが主体的に楽しく学べる授業づくり ～ICTを活用した学習活動を通して～

2. 主題設定の理由

近年、子どもたちを取り巻く環境は急速に変化し続けている。世界的なグローバル化、地球温暖化による気候変動や異常気象、地震や津波などの自然災害、感染症の世界的流行によるパンデミック、さらにAIなどの新しい技術の発展などにより、将来の変化を予測することが困難な時代と言われている。このような予測困難な社会を生き抜くためには、環境の変化に対応する柔軟性や適応力に加え、新たなアイデアを生み出す創造力や他者と協働するコミュニケーション力が必要である。

こうした社会の急速な変化をもたらす大きな要因の一つが、デジタル化の進展である。スマートフォンやタブレットなどの情報端末が広く普及し、誰もが情報の受け手であると同時に発信者となる現代において、大量の情報から必要な情報を取捨選択する能力が求められている。さらに、得た情報を結び付けて新たな意味を見い出し、問題を解決する力も不可欠である。変化し続ける社会で生きていくためには、主体的に情報を収集し、活用しながら課題を解決する能力の育成が重要な課題である。

このような背景を踏まえ、学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。児童が自ら課題を見つけ、考えを深め、他者と対話しながら学びを広げていくことは、これからの中学生時代に必要な資質・能力の育成に直結する。しかし、本校の児童は、素直で活発な一方で、学習への意欲や理解の定着度には二極化が見られる。基礎・基本の定着に課題がある児童も少なくなく、そうした児童の多くは一斉指導では主体的に学ぶことが難しいという現状がある。この課題は全学年に共通しており、早急に取り組む必要がある。

そこで、児童が友だちの考えを参考にしながら、自分に合った方法やペースで学習を進められる環境を整えることで、学習に前向きに取り組む児童が増えるのではないかと考えた。そのためには、一人一台の学習者用端末を活用することが効果的である。ICTを「学びを支える道具」として活用し、必要な情報を収集・整理し、他者との対話を通して考えを深めることで、児童が主体的に問題を解決し、学びに楽しさを感じられる授業づくりが可能になると仮説を立てた。

以上の理由から、研究主題を「子どもたちが主体的に楽しく学べる授業づくり～ICTを活用した学習活動を通して～」と設定し、ICTを活用しながら児童が自分の学びを調整し、主体的に学習に取り組めるような実践を進めることとした。

3. 研究の視点

①児童が主体的に学べていたか

- ・児童が主体的に学ぶための環境設定
- ・指導者の工夫

②ICT の効果的な活用

- ・ICT 活用の効果
- ・その他の活用方法

4. 2025年度研究の経過

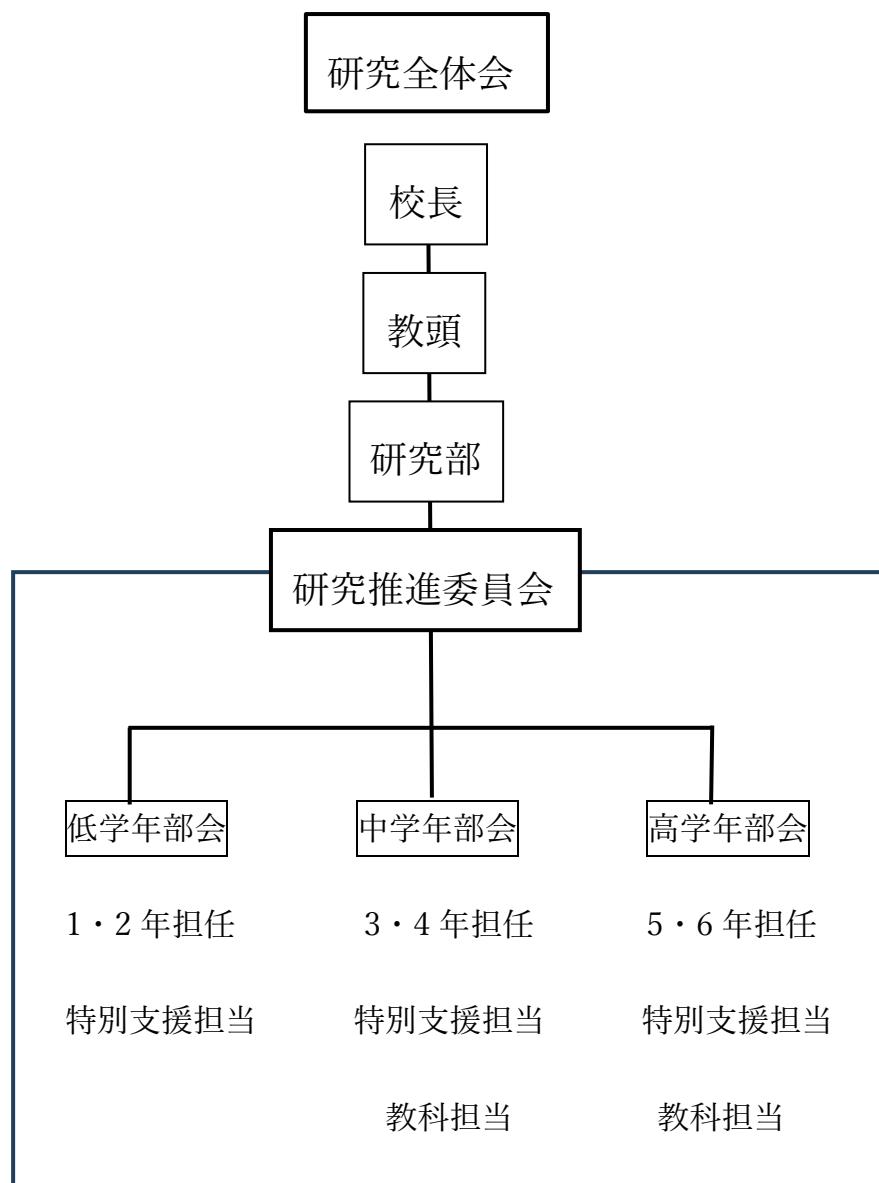
月	経過と主な内容
4	研究推進委員会……研究主題・研究組織編成・研究計画・研究の視点等立案 研究全体会…………研究主題・研究組織・研究計画・研究の視点等の共通理解 全体研修会…………講師 大阪市立今里小学校 研究部
6	高学年部会………5・6学年指導案検討 研究部会…………5・6学年指導案検討
7	研究全体会…………5学年研究授業「What subject dou you like?」、研究討議会 6学年研究授業「平和のバトンをつなげよう」、研究討議会
9	中学年部会…………4学年指導案検討 研究部会…………4学年指導案検討
10	研究全体会…………4学年研究授業「表し方のくふうを考えよう」、研究討議会 指導助言 大阪市総合教育センタースクールアドバイザー 中島 一彦 先生 中学年部会…………3学年指導案検討 研究部会…………3学年指導案検討 低学年部会…………1学年指導案検討
11	研究部会…………1学年指導案検討 低学年部会…………2学年指導案検討 研究全体会…………3学年研究授業「いろいろな『顔』見つけた」、研究討議会 指導助言 大阪大谷大学 後藤 壮史 先生 研究部会…………2学年指導案検討 研究全体会…………1学年研究授業「こえに出してよもう」、研究討議会 指導助言 大阪大谷大学 後藤 壮史 先生
12	研究全体会…………2学年研究授業「『どうぶつカード』を作ろう」、研究討議会 指導助言 大阪大谷大学 後藤 壮史 先生 研究部会…………研究発表会の発表内容の検討 研究全体会…………研究発表会に向けての校内リハーサル

5. 校内研究体制

○ 研究推進委員会の設置について

研究部と各学年・パート 1 名で構成する

○ 研究の組織



II. 各学年の実践

◇第1学年 国語科「こえに出してよもう」

◇第2学年 国語科「『どうぶつカード』を作ろう」

◇第3学年 図工科「いろいろな『顔』見つけた」

◇第4学年 国語科「表し方のくふうを考えよう」

◇第5学年 外国語科「What subject dou you like?」

◇第6学年 総合的な学習の時間

「平和のバトンをつなげよう」

～伝えよう後輩たちに～